

わくわく! 昆虫ワールド展

この展示会は昆虫について大型模型や体験遊具で体験を通して学び、世界の昆虫の生態を写真や標本、ジオラマの観察から会得できる内容です。さらに、宮崎の情報として、宮崎県に生息する昆虫の標本や実物を合わせて展示紹介することにより、子どもたちが昆虫や地球環境、生命について興味・関心を持つことをねらいとしています。



コーカサス
オオカブト



ヘラレスオオカブト

見どころ

体表面積世界最大級のチョウ、世界最重量級のハナムグリ、体長世界最長のオオナナフシ、また、世界最長、最重量のカブトムシや大型のクワガタムシ、カミキリムシの標本、生きているカブトムシや生きているように見える生態ジオラマなど迫力満点です。



ハチの目線の体験遊具

たくさんの虫たちがまっているよ



2007年 7/14(土) ▶ 9/2(日)

休館日: 7月17日(火)・8月20日(月)

主催: 宮崎県総合博物館
独立行政法人国立科学博物館

会期
49日間

■観覧料

区分	個人	団体
大人	200円	200円
小中高生	100円	100円

■観覧時間
午前9時～午後5時まで
協力: 宮崎昆虫同好会

※未就学児は無料

関連行事

昆虫のはがき絵・写真展

昆虫をモチーフにした作品を募集しています。絵、写真、CGなど、はがきであれば何でも結構です。出品された作品は全て展示します(1人3点まで)。

●募集期間／5月24日(木)～7月31日(火)
●展示期間／わくわく!昆虫ワールド展期間中
※写真を出品される方もハガキサイズをお願いします。

お知らせ

夏休み中の休館日のお知らせ

7/17(火)と8/20(月)の2日間のみとなります。

常設展は無料です

常設展示室は、平成17年度4月より無料となっております。いつでも御来観ください。

「採集作品の名前を調べる会」のご案内

夏休みに採集した植物・昆虫・貝・岩石・化石の名前を調べます。事前の申込みは不要です。

日時: 8月19日(日) 10:00～15:00

対象: 小・中・高・一般

場所: 情報室 定員: なし

第42号

森

の通信



自然と歴史の大発見
宮崎県総合博物館

Miyazaki Prefectural Museum of Nature and History

発行日/平成19年7月1日

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail:hakubutsukan@pref.miyazaki.jp FAX(0985)24-2199

吉村作治の 早大エジプト発掘40年展

吉村作治先生が率いる早稲田大学古代エジプト調査隊の活動40年を記念して、これまで同調査隊が発掘した250点余りを一挙公開します。

見どころは、2005年1月に早稲田隊がダハシュール北遺跡において発見した青いミイラマスクと彩色箱形木棺です。今から3800年前に活躍した行政官セヌウのもので、未盗掘の完全な形で発掘された事例としては最古級のものであり、一躍世界的に有名となりました。全世界に先駆けて日本で初公開されます。また、ツタンカーメン王と王妃のペアの指輪やクフ王の銘の入ったスフィンクス像などエジプト考古学史上重要な発掘品をはじめ、CGで再現したセヌウの復元マスクや「太陽の船」の復元模型、王墓壁画の実物大パネル、実際に調査で使っていた最新の発掘機器、エジプト考古学者を夢見た吉村先生の少年時代なども紹介します。さら



に青いミイラマスク発見の様子や早大エジプト調査隊40年のあゆみなどがわかるハイビジョン映像を迫力ある大型モニターで上映するなど、これまでのエジプト展とは違った企画が満載の展覧会です。



青いミイラマスクがやってくる!

■会期 2007年9月21日(金) — 11月18日(日)

■会場 宮崎県総合博物館【特別展示室】

休館日: 毎週火曜日(9/25、10/2、9、16、23、30、11/6、13)

■観覧時間 午前9時～午後6時(入場は午後5時30分まで)
※9月21日は午前11時から公開

■監修 吉村作治

■主催 宮崎県総合博物館、MRT宮崎放送、RKB毎日放送

■観覧料: 大人 <当日>1,200円<前売・団体>1,000円
小中高生 <当日> 600円<前売・団体>400円(団体は20名以上)

※前売券 は7月20日から県内主要プレーガイド、チケットぴあ、ローソンチケット、総合博物館等で発売予定

吉村作治先生が宮崎にやってくる!

9月21日(金)・22日(土)

10月5日(金)・6日(土)

10月27日(土)・28日(日)

●講演会やトークショー・サイン会など様々な催しを予定しています。

●詳しいことは後日博物館等ホームページやテレビCM等でお知らせします。

●都合によりスケジュールが変更・中止になる場合があります。



宮崎の自然情報

◆植物部門◆

今や宮崎市は人口35万人を超える中核市となりました。その宮崎市の北側に博物館が所在する「緑のオアシス」神宮の森があります。博物館ではこのお膝元である神宮の森の植物調査を平成13年から平成14年にかけて行いました。

その結果、神宮の森ではシイ・カシ類の自然林が多く残され、同時にスギなどの植林も見られることがわかりました。今回の調査では多くの県民の方に参加していただき現在、369種の植物を確認しています。また博物館の周辺は、昔は林業試験場があったとされ、当時植栽されたと思われるユーカリ類や外国産のマツ、ヒメツバキなども見られます。市街地の中にこれだけの種が生育しているということはまさに「緑のオアシス」といえるでしょう。（福松）



ヒメツバキ

常設展示室紹介

◆民俗部門◆

マダケでカゴ編みにした径1メートルほどもある山高帽子状の籠と、それを載せるためのマダケで網代編みした筒状の台との組み合わせでできています。摘んだお茶の葉を大釜で炒り、ムシロの上でもんだ後、チャベロの上にのせ、下から炭火を炊きます。両手でもちあげパラパラと落として乾燥させます。では、「チャベロ」の「ベロ」とはどういう意味があるのでしょうか。茶をあぶる籠という意味の「茶焙籠（ちゃばいろう）」が訛ったもの、茶を蒸す籠という意味の「茶蒸籠（ちゃぜいろう）」が訛ったという説など諸説があります。このように民具には、聞き慣れない名称が付いているものもありますが、その名称の由来については不明なものもあります。皆さんもぜひ民具の名称の意味を解き明かしてみませんか。（小山）



講座紹介

◆動物部門◆

クジラ骨格組立体験



6月2日（土）に、本館で初めての「クジラ骨格組立体験」を実施しました。本講座は、館収蔵資料のツノシマクジラ（体長3.2m）、オガワコマッコウ（体長2.2m）、コククジラ（体長7.9m）の骨格を簡易展示台上に組み立てる作業をとおして、クジラの骨のつくりを学習することを目的とし開催し、あわせて講座協力者としてNPO法人宮崎くじら研究会理事長の栗田壽男氏を招聘し、クジラの漂着状況等について解説をしていただきました。定員30人で募集したところ58人の応募があり、2回に分けて講座を実施することとなりました。参加者の多くは小学生で、間近にクジラの骨を見たり触れるのは初めての経験で、興味津々、また楽しみながら講座に参加していました。（末吉）

博物館への問い合わせより

◆歴史部門◆



「児湯郡印」（館蔵レプリカ）

郡域の変遷

～むかし「那珂郡」は、日向国の「まん中」だったんですか？～

古代における日向国は、10世紀の『和名類聚抄』によると、臼杵・児湯・那珂・宮崎（宮崎）・諸島の5郡から構成されていました。中でも、古代の那珂郡は、日向国東端のほぼ真ん中に位置していたことから、佳字（めでたい文字）を当てて「那珂」郡になったと考えられます。一方、現在県央に位置している宮崎郡は、古代には現宮崎市の大淀川下流域から日南海岸沿いに現串間市にいたる南北に長い郡域をもっていたとみられています。その後、宮崎郡の南部地域が分離して新しい「那珂郡」となり、その残り旧那珂郡が新しい「宮崎郡」へと大きく変化していったようです。宮崎郡と那珂郡の位置関係が変化していく経緯は、近世までの複雑に入り組んだ所領関係に原因があります。県内でも市町村を整理・統合する「平成の大合併」が進行中ですが、これまで県内の郡域がどのように変化してきたかを再確認してみましょう。（中竹）

新収蔵資料紹介

◆地質部門◆

鉱物の標本箱（白池コレクション）

みんなの情報室には、岩石、昆虫、貝などの標本箱が普及資料として用意され、箱を手にとって観察できるようになっています。これまで、鉱物標本は常設の展示ケース内のものだけでしたが、この度、情報室にも鉱物の標本箱を追加しました。この資料は、県内の高校で地学を教えてこられた白池 図氏より寄贈されたものから82点を選んで構成しました。

標本は県内外の鉱山などで採取したものも多く、煙水晶、子連れ水晶、ダンブリ石、斧石、ザクロ石、沸石など種類が豊富です。現在では採取困難な貴重な鉱物も多く、図鑑と照らしあわせてみたり、純粋に輝きを楽しんだり、鉱物に親しむことのできる標本箱です。（赤崎）



5ケース82点の鉱物標本



大分県尾平鉱山産の水晶

解説員の声

東国原知事就任後、各方面から注目を集めている宮崎県。賑わいを見せている県庁ツアーでは、正面玄関ホールにある階段手すりの石灰岩に約4億年前のウミユリやハチノスサンゴを見ることができます。総合博物館でもそれらの良好な化石を展示し、宮崎の魅力を発信しています。

1階の地質コーナーでは、県内産出の化石や岩石を中心に、恐竜化石などとともに大地変動のしくみをわかりやすく解説しており、青島の波状岩・霧島火山群など、誰もが知りたい情報であふれています。全体が年表のような展示スタイルで、宮崎の大地が長い年月をかけて形作られたことを実感していただけます。皆さまも一度、宮崎の生い立ちをたどる旅へ出かけてみてはいかがでしょうか？（解説員：黒葛原）



Voice